

第2回岡山県子ども・子育て会議委員発言要旨

平成26年5月14日(水)

ピュアリティまきび「孔雀」

議事1 「次期岡山いきいき子どもプラン」(仮称)骨子案について

議事2 県民意識調査の結果(概要)について

(委員)

基本理念の考え方に「岡山県の特性を踏まえて上で」とあるが、県の特性ととはどんなものか。

また、基本理念(案)に「全ての子どもたちが」とあるが、子どもだけではなく「子どもを中心とした家族が」としてはどうか。

次に、次期プランの項目中に、「歯の健康づくり」とあるが、特に歯だけを抜き出すのはどういった理由か。歯だけではなく体全体の健康づくりが必要なのではないか。

また「家庭の教育力の向上」について、家庭教育は親の責任として認識してもらう必要があるのではないか。

「特定教育・保育及び特定地域型保育」とはどういったものか。

(事務局)

本県の特性には「晴れの国」といった明るいイメージがある。また、本県の最上位に位置付けられた「晴れの国おかやま生き生きプラン」の名称等を踏まえて案としている。

また、「全ての子どもたち」は象徴的なものであり、子どもが明るく暮らす背景には、家庭、保護者、地域、学校など全てが明るくなることが大切である。事務局案について、皆様方から御意見をいただきたい。

(関係課)

「歯の健康づくり」については、平成23年に条例(岡山県民の歯と口の健康づくり条例)を定め、子どもの虫歯を防ぐ施策など8020運動を展開している。

歯は子どもの心と体のベースであり、子育てを行う環境に大きく関与していることから、いろいろな関係団体や市町村とともに生涯を通じた歯の健康づくりを推進していることから項目としてあげている。

(事務局)

「家庭の教育力の向上」については、家庭教育に対する親の認識についても、記載するものと考えている。

「特定教育・保育」とは、子ども・子育て支援法に基づき公的支援をしていく教育と保育について、各自治体が確認行為を行うこととされており、確認したものを「特定教育・保育」と呼ぶこととしている。

(会 長)

基本理念(案)の「子どもたち」について、次期プランの内容は子どもに特化したものではなく、妊娠や結婚、様々な家庭の支援等を踏まえているが、象徴として「子ども」とすることで良いかと考える。

(委 員)

子ども・子育て支援について、実際に動かしていくのは市町村となるが、次期プランが市町村にどのように影響力を与えるかを工夫する必要がある。

また、県民意識調査について、子どもがいる世帯調査では、幼稚園・保育園・小学校低学年の子どもがいる世帯が調査対象となっているため、在宅家庭で子育てを行っている方の意見が反映されているのか疑問である。在宅の人たちの支援もしっかりと視野に入れていただきたい。

また、子育て支援拠点事業という親子が集まる場が、社会的にどのくらい認識をされているかということを知りたい。

(事務局)

市町村との関わりについて、次期プランは市町村等と一体的に進めるものであり、子ども・子育て支援事業部分は市町村の積み上げを踏まえた上で策定し、それ以外の部分でも県が市町村に対しどのように支援するかといった内容を盛り込んでいく。

在宅家庭からの意見については、パブリックコメントを実施するほか、一般意識調査による在宅家庭の意見、また、子どもを持つ世帯の中での在宅家庭の意見のほか、委員の方などから広く御意見をいただきながら、次期プランに盛り込んでいく。

(委 員)

県民意識調査等では、働く人に対する支援が必要との意見が多く見受けられるが、在宅で子育てを頑張っている人の気持ちも汲んでいただきたい。

(委 員)

子ども・子育て支援新制度における主体は市町村だが、次期プランと市町村の主体性の関係はどうか。市町村は県に従ってくださいというスタンスか。

(事務局)

次期プランのうち、子ども・子育て支援制度に係る部分については、市町村のニーズ調査結果等の積み上げを踏まえた上で策定する。

それ以外のところで、市町村が取り組むべきところについては、県としてどのような支援ができるか、市町村の意見や意向等を踏まえながら、連携すべきところは連携して策定する。県計画と市町村計画のどちらが上位とかいうものではない。

県では、専門的知識が必要なものや広域的な問題に対して市町村を補完する計画を策定する。具体的には、児童虐待の問題や社会的養護体制の充実、障がい児施策の充実等について県計画に盛り込んでいく。

(委員)

基本理念(案)に「明るい笑顔で暮らす」とあるが、本県の特性である「晴れの国」を活かし「晴れやかな笑顔で暮らす」としてはどうか。

(委員)

何を行うにも親や家族だけではできない。地域や企業はもとより県や市町村が一丸となって本気でやらないと少子化をストップさせることはできない。

(会長)

次期プランは、子ども・子育て支援事業支援計画を始めとして、次世代育成支援対策の実施に関する計画や自立促進計画などを総括する計画となっており、このように一つにまとめることで、子どもの育ちや家族などについて、整合性がとれ統一性も図られる。

さて、現プランの目標事業量の達成状況はどうか。

(事務局)

平成26年度末の状況については取りまとめ中のため、次回会議で報告する。

(会長)

数値目標だけが一人歩きをして、それが活かされているか疑問に思う会議もある。数値目標を記載するのであれば、何が充実し、何が不足しているのかを明確にすること大切である。

(委員)

ニーズ調査結果の放課後児童クラブに対する要望について、「利用料を安くしてほしい」と比較し「指導内容をもっと充実させてほしい」は1/3程度だが、指導内容は他施設との比較ができない低い値を作りだしている可能性がある。

現プランの項目の中では「放課後児童クラブの拡充」があるが、次期プランにおいては、量の拡充だけでなく、さらに質の充実が必要と考える。

(事務局)

次期プランの項目には「放課後児童クラブの拡充」を記載していないが、子ども・子育て支援新制度の下で、放課後児童クラブについては、量はもとより質の確保についても、盛り込まれるものとする。

議事3 意見交換

(委員)

世の男性がサポートしてくれないから子どもを生まない、という状況があるのなら、育児に対して男性達が関わっていく姿勢をつくっていく活動が必要と考える。

男性の意識改革が今後の子育てにとって大きなウエイトを占めるのではないか。

(委員)

ある講演会で「しつけは3歳までにしてください」と聞いた。小さい子どもの育て方の勉強が大切なので、小さな子どもを持つ親が勉強できる場があると良い。

(委員)

発達障害を持つ子が増えている中、保育士に対するスキルアップの取組や拠点園の設置など、経費的な問題もあり実現には至っていない。

また、外遊びをしていると子どもは大変喜ぶがなかなか親に伝わらない。子どもに対しても外遊びは有効であるが、それをしっかり親に伝えていくことが必要と考える。

(委員)

中山間地域では、母親学級が行われているが、回数は少なく参加人数も少ない。転入者に支援制度や遊びの場等の情報提供を行っている。

また、小さな単位で母親クラブ、子ども会があり、地域の方が支えてくれたり声を掛けてくれたりしてくれるので、働いている方、在宅で子育てをする方にかかわらず地域のみんなで子育てを行っている。

(委員)

「メディアコントロール」については、長期間にわたり子どもへの影響が出るため、意識啓発を行うとともに、地域での人材育成が必要である。メディアコントロールについては、次期プランの中に取り入れていただきたい。

地域子育て支援拠点は、子どもの豊かな育ちに必ず繋がるものであり、国も事業推進していることから、質の向上も伴って数を増やす必要があり、本県でも子どもの育ちをみんなを支えるためにも、ぜひ作っていただきたい。

(委員)

地域子育て支援拠点は、働く親も家で子育てをしている親も参加できる場所であり、子育てのスタート地点なので、ぜひ作っていただきたい。

(会長)

行政だけでなく、いろんところで協働体制を作りwin-winの関係の中で、県にはコーディネーター役をお引き受けいただき、委員の皆様には、岡山の全ての子どもが晴れやかな笑顔になるよう、次期プランのほか施策についても提案いただきたい。

以上